

国際比較調査の目指したもの

「理想の看取りと死に関する国際比較調査」

ILCセミナー

日本の看取り、世界の看取り

2012年2月3日

■辻 彼南雄

一般社団法人ライフケアシステム代表理事

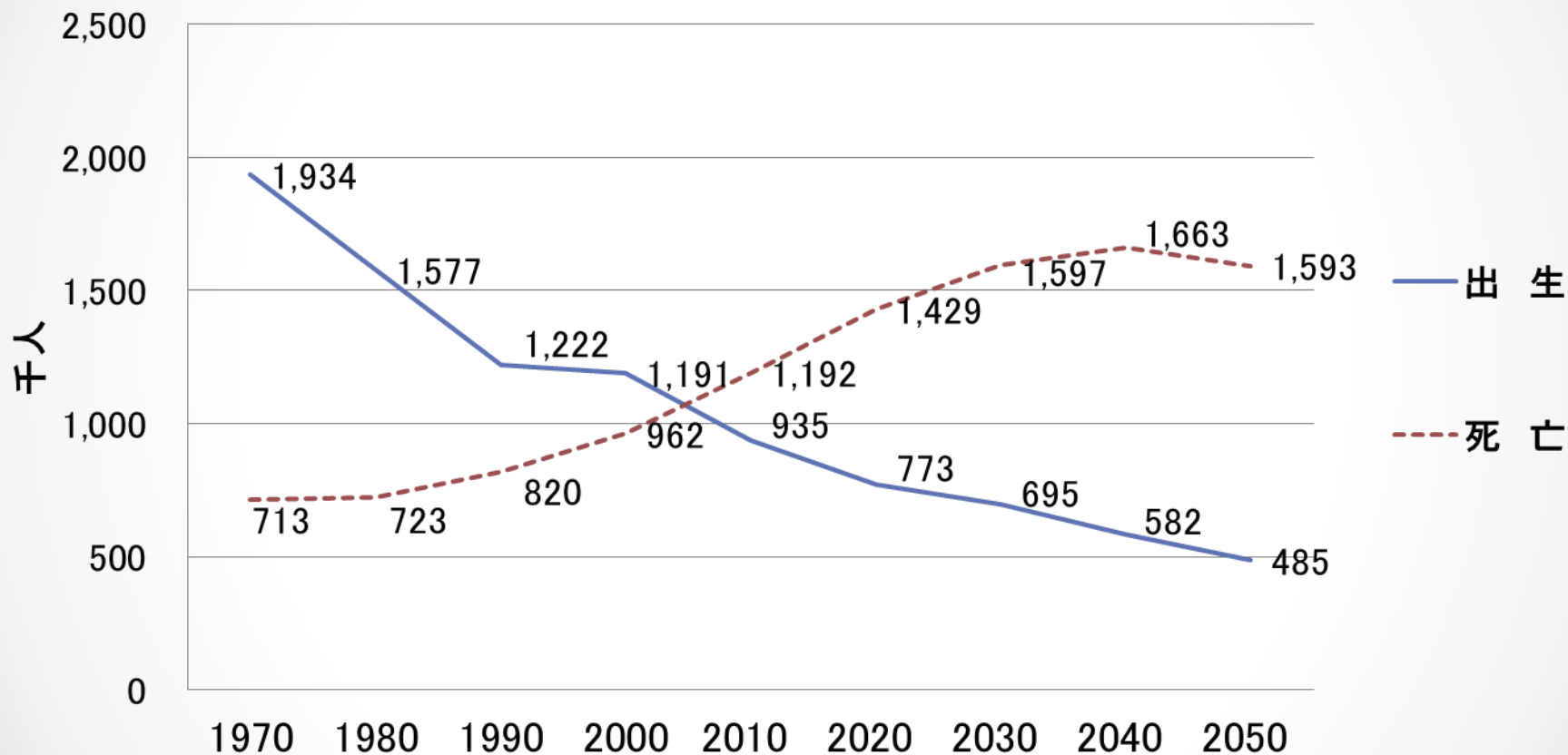
医療法人社団互酬会水道橋東ロククリニック理事長

- 「病院で死ぬようになったのは、病院がもはや家では与えられなくなった手当の与えられる場所となったからです。病院はそもそもは貧窮者や巡礼者のための収容所だったのですが、それが医療センターとなり、そこで治療がなされ、死との戦いが行われるようになりました。かつて、病院で死ぬのは、医師が治療に成功しなかったからでした。今では治るためではなく、まさに死ぬために病院に来るようになっている、あるいはこれからもそうなっていくでしょう。」
- 「(現在における)死とは、治療の停止という技術的現象であり、その停止の決定は医師および病院のチームによってくだされるのです。」

フィリップ・アリエス 死を前にしての態度
「死と歴史」みすず書房1983

調査の背景

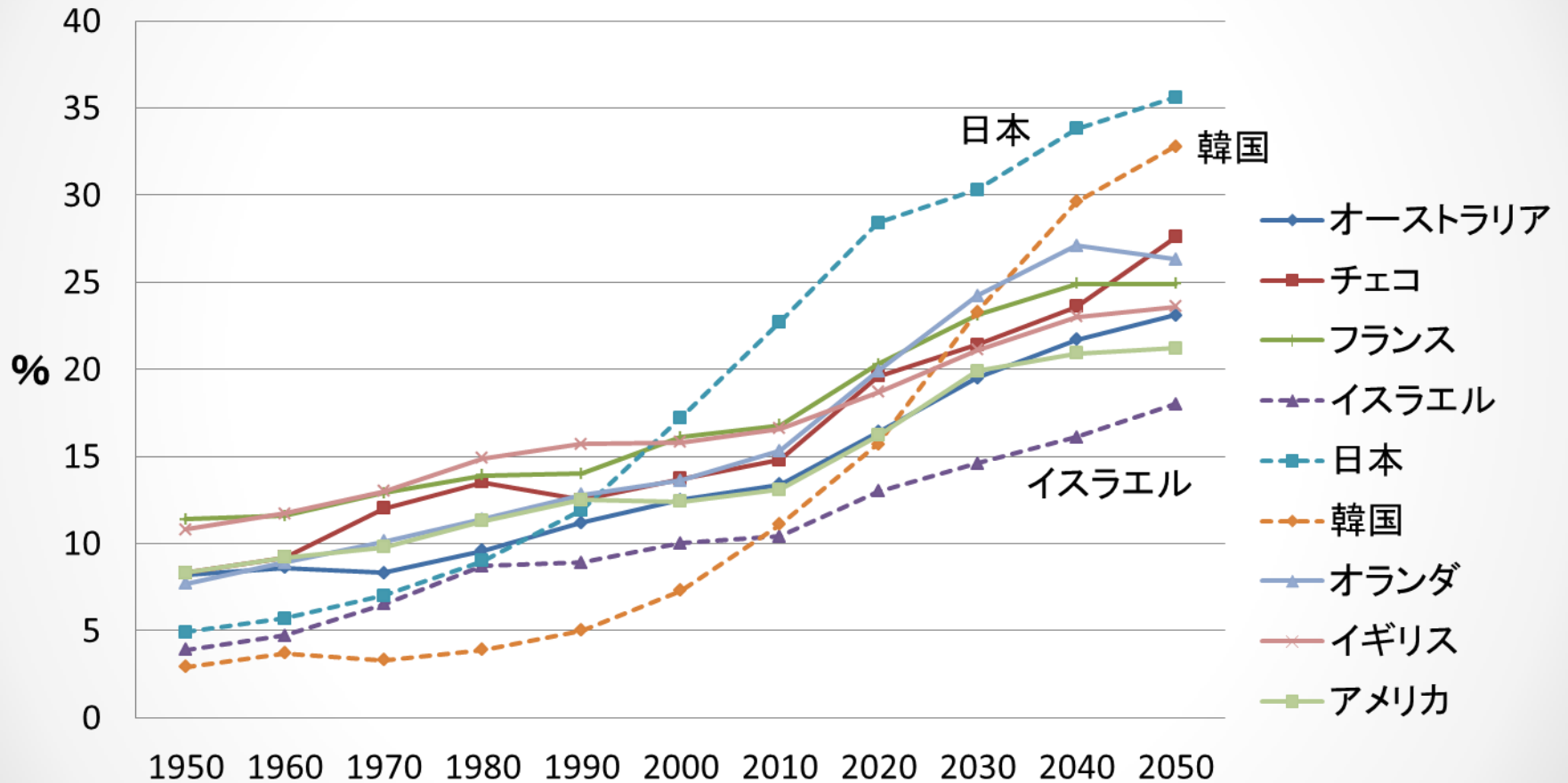
出生数、死亡数



2000年まで: 厚生労働省「人口動態統計」

2010年以降: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」

各国の高齢化率 (調査対象国1950-2050)



UN, World Population Prospects 2010

2つの疑問についての議論から 出発

疑問1

〈なぜ病院死が増え、在宅死が減ったのか〉

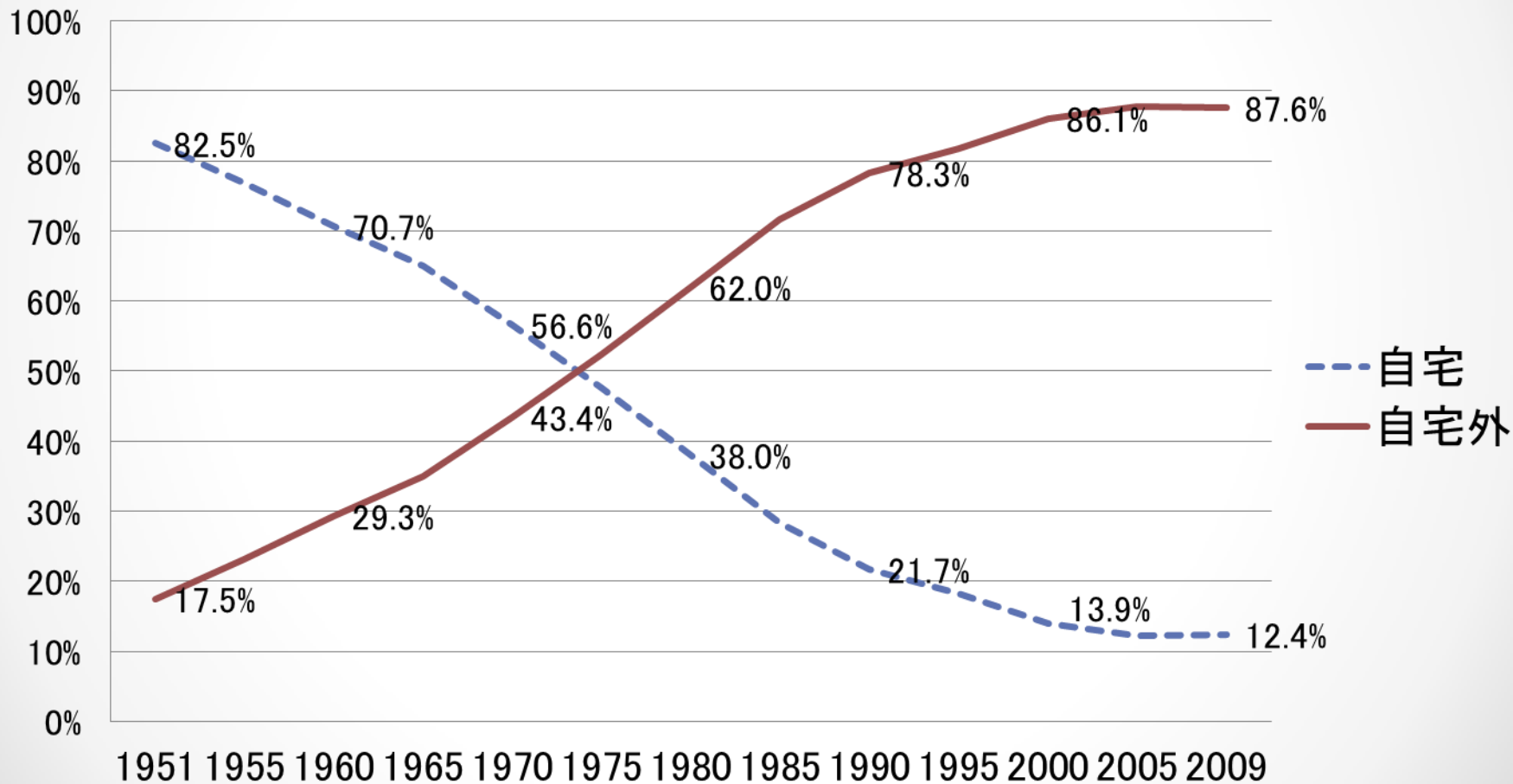
疑問2

〈死を迎える場所の違いは何から生まれるか〉

疑問 1

〈なぜ病院死が増え、在宅死が減ったのか〉

死亡場所の推移

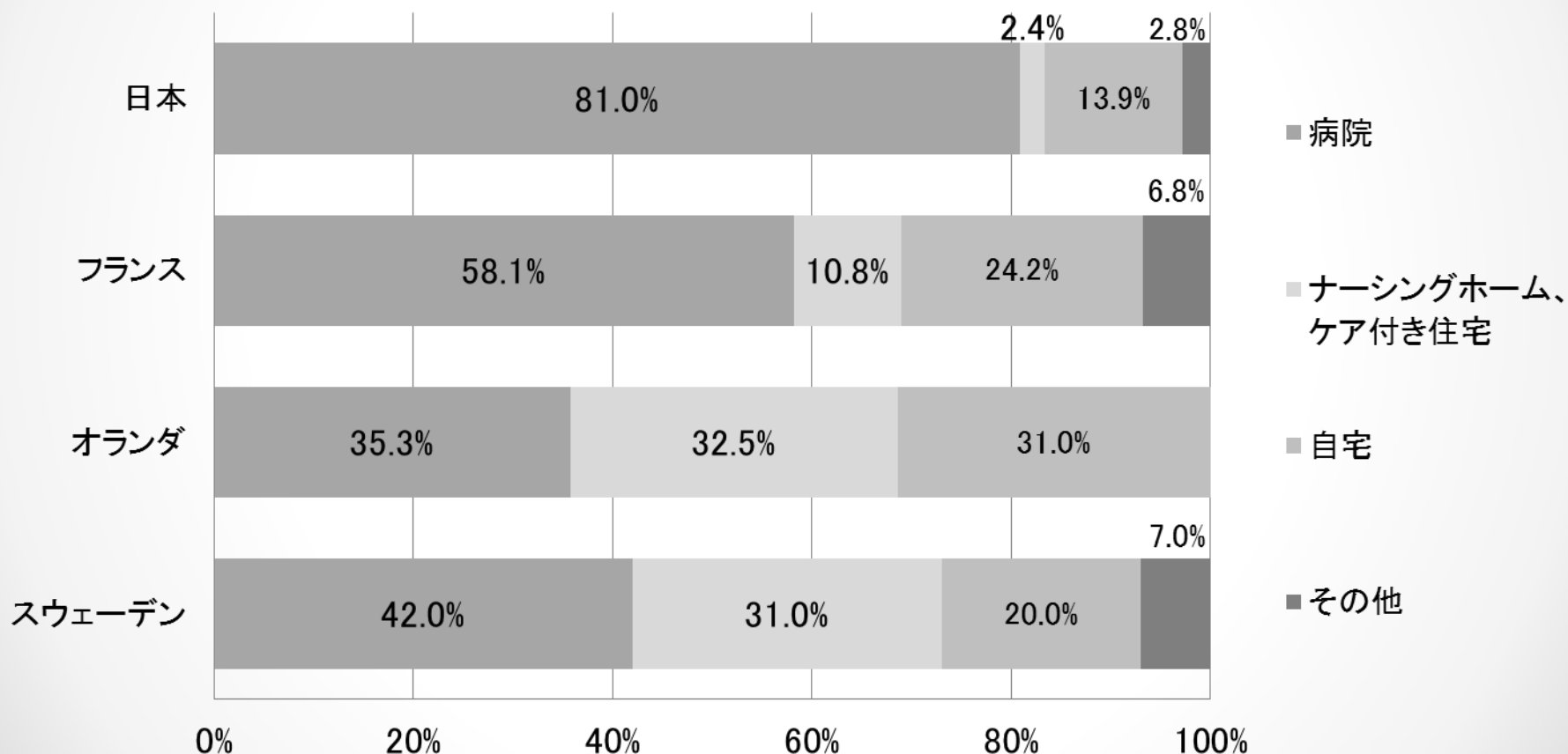


厚生労働省「人口動態調査」2009

疑問 2

<死を迎える場所の違いは何から生まれるか>

終末期における医療 — 死亡場所の内訳

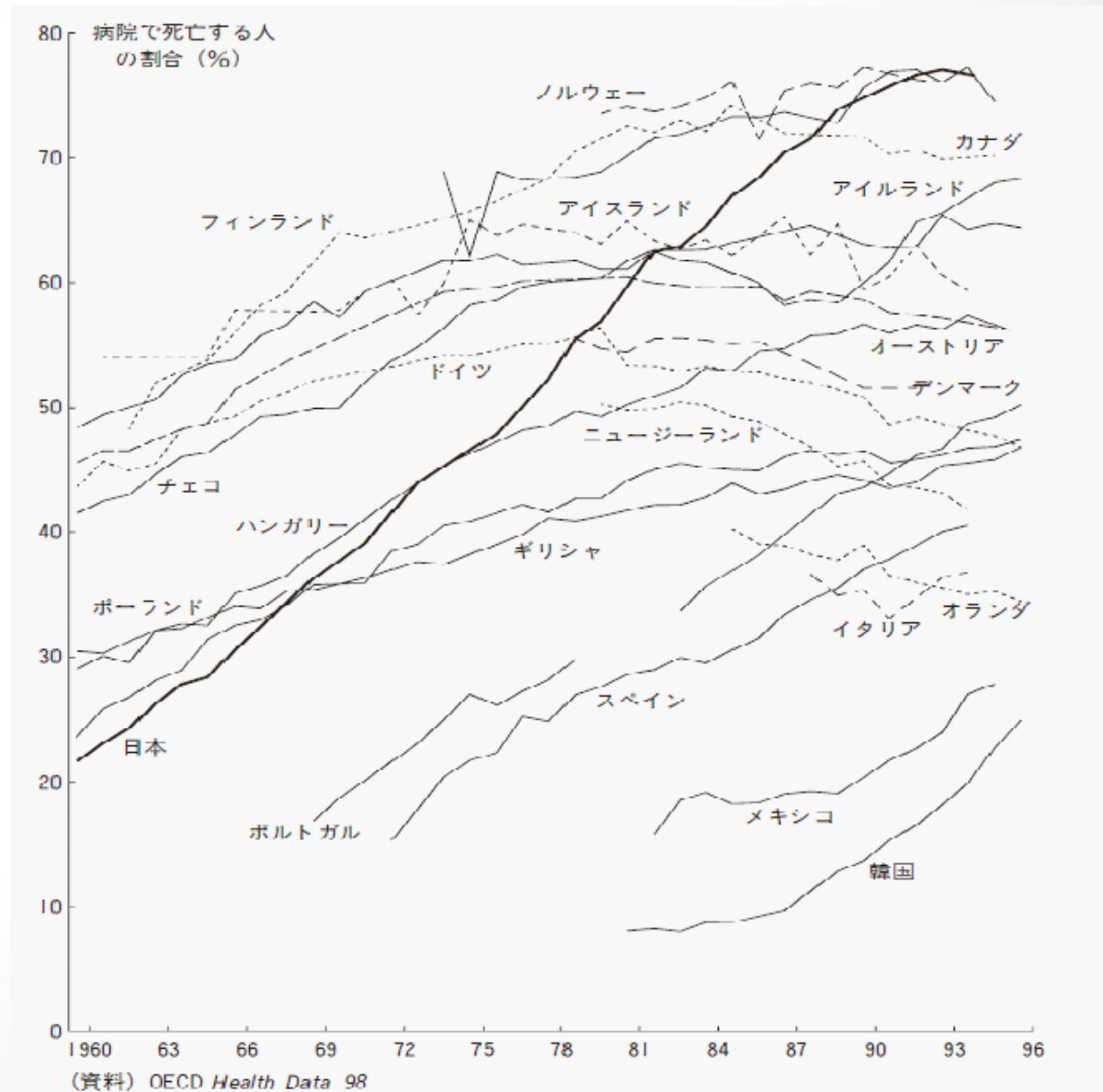


医療経済研究機構 「要介護高齢者の終末期における医療に関する研究報告書」2002

疑問 2

<死を迎える場所の違いは何から生まれるか>

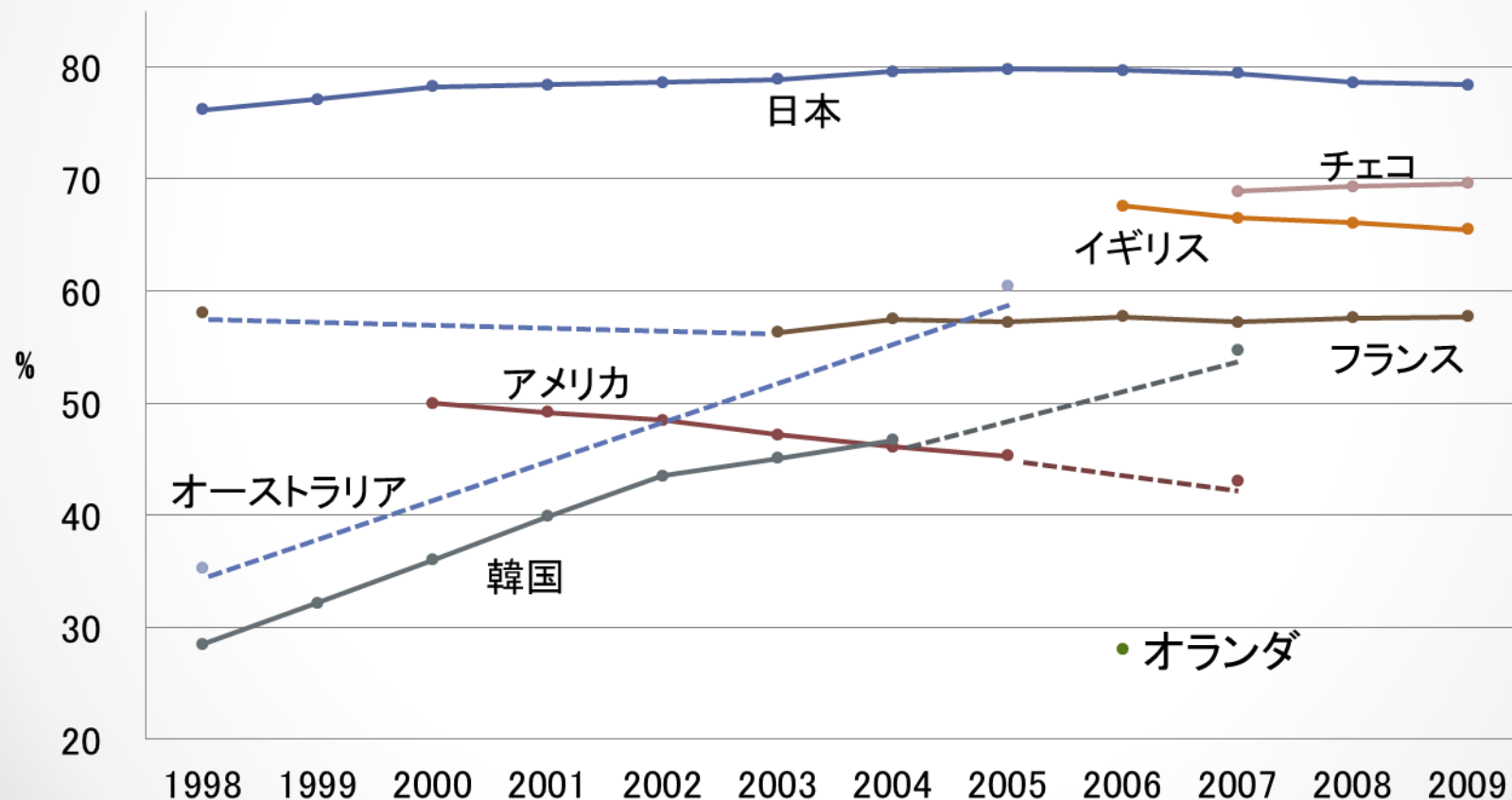
病院で
死亡する人の
割合



疑問 2

<死を迎える場所の違いは何から生まれるか>

各国の病院死率の変化(調査対象国)



国際長寿センター調べ
破線は不明の年度

病院死を促進・抑制する因子は何か？

- 病院死を促進する因子
 - 1) 高齢化
 - 2) 経済成長＝医療費の増加
- 病院死を抑制する因子 ？

理想の看取りと死に関する国際比較調査

- ・ 終末期、看取りについての国際制度比較調査

各国の協力機関対象。終末期のケアについての法律や条例、等

(日本、アメリカ、フランス、イギリス、オランダ、イスラエル、チェコ、韓国、オーストラリア)

- ・ 終末期の介護・医療と看取りに関する国際比較調査：アンケート調査

各国の協力機関経由で(日本は直接)、看取りを行う専門職対象。看取りの理想と実際、等

(日本、アメリカ、フランス、イギリス、オランダ、イスラエル、チェコ、韓国、オーストラリア)

- ・ 終末期の医療・介護と看取りに関する国際比較調査：施設質問紙調査

各国の協力機関経由で(日本は直接)、病院・施設対象。看取り経験・経管栄養利用者数、等

(日本、韓国)

- ・ 終末期の医療・介護と看取りに関する国際比較調査：ヒアリング調査

各国で直接インタビュー。終末期の高齢者への看取りを行っている)事業者。看取りの実際

(日本、韓国、オーストラリア)

調査にご協力いただいた方々

- 日本国内: 病院、診療所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護事業所、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、有料老人ホーム
- 海外の国際長寿センター: アメリカ、フランス、イギリス、イスラエル、チェコの各国センター
- 韓国痴呆家族協会
- HammondCare (オーストラリア)